




つなぐ。 ツクル。


2021年9月期第2四半期 決算補足説明資料

2021年5月

極東産機株式会社 (6233 東証JASDAQ)

KYOKUTO

 2021/9期第2Q決算概要

 2021/9期決算見通し

 トピックス

2021/9期2Q決算概要

2021年9月期第2Q決算の概要

- 前年同期比で大幅増収増益を達成。2020年10月のROSECC買収効果に加えて、プロフェッショナルセグメントのインテリア事業部門が半期ベースで売上高過去最高を更新し、全社の好業績を牽引。利益面では、利益率の高いオリジナル製品が当初想定以上に好調に推移。自動壁紙糊付機（プロフェッショナル）に加え、回復基調に転じたインダストリーも寄与。対期初予想で大幅超過達成に

(百万円)	2020/9期		2021/9期上期			対前年同期比	
	上期	下期	期初予想 (11/13)	直近予想 (4/28)	実績	増減額	増減率
売上高	3,999	4,007	4,405	4,674	4,674	+675	+16.9%
プロフェッショナル	3,198	3,187	—	—	3,501	+303	+9.5%
コンシューマ	477	453	—	—	389	▲88	▲18.4%
インダストリー	322	369	—	—	426	+104	+32.3%
ニュー・インダストリー	—	—	—	—	357	—	—
営業利益	75	45	40	179	179	+104	2.4倍
プロフェッショナル	47	31	—	—	146	+99	3.1倍
コンシューマ	17	19	—	—	▲9	▲26	—
インダストリー	10	▲4	—	—	39	+29	3.9倍
ニュー・インダストリー	—	—	—	—	3	—	—
経常利益	36	46	16	203	203	+167	5.6倍
当期純利益	22	46	10	145	151	+129	6.9倍
営業利益率	1.9%	1.1%	0.9%	3.8%	3.8%	+1.9pp	—
経常利益率	0.9%	1.1%	0.4%	4.4%	4.4%	+3.5pp	—

四半期毎の業績推移

- 2Qは、プロフェッショナルセグメントが1Qを上回る好調を維持したほかインダストリーセグメントも大きく回復、ROSECCの買収効果もあって、累計期間の売上、利益は期初予想を大幅に超過

(百万円)	2020/9期				2021/9期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,815	2,184	1,659	2,348	2,065	2,609
プロフェッショナル	1,505	1,693	1,299	1,887	1,684	1,817
コンシューマ	206	271	211	241	211	178
インダストリー	102	220	148	219	109	317
ニュー・インダストリー	—	—	—	—	59	298
営業利益	▲ 19	94	▲ 68	113	12	167
プロフェッショナル	▲ 5	53	▲ 67	98	48	98
コンシューマ	▲ 1	19	6	11	▲ 3	▲ 6
インダストリー	▲ 11	22	▲ 8	3	▲ 15	54
ニュー・インダストリー	—	—	—	—	▲ 16	19
経常利益	▲ 22	58	▲ 77	122	22	181
当期純利益	▲ 19	41	▲ 56	101	9	142
営業利益率	-1.1%	4.3%	▲ 4.1%	4.8%	0.6%	6.4%
経常利益率	-1.2%	2.7%	▲ 4.6%	5.2%	1.1%	6.9%

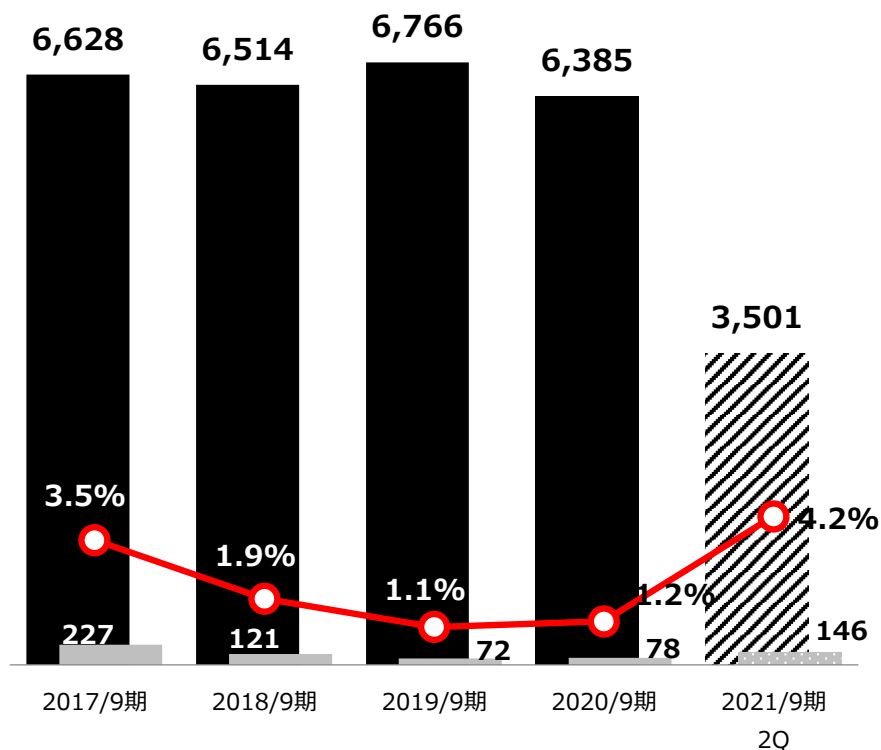
セグメント別事業の状況 ①プロフェッショナルセグメント

- 前年同期比増収増益。インテリア事業の自動壁紙糊付機が好調に推移し、半期ベースでの過去最高を更新し、セグメント全体の業績拡大を牽引。畳関連事業も、「ものづくり補助金」採択先への販売が順調に推移
- インテリア事業の好調は、コロナ禍を契機とした「新しい営業方式」の浸透が奏功。地域密着のターゲティングアプローチにシフト。持続化給付金などが顧客の買換決断の後押しとなった一面も

売上高・営業利益・営業利益率

(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率



主たる変動要因

① 畳関連事業：順調に売上伸長

- ✓ 「ものづくり補助金」採択先への販売が順調に進展

② インテリア関連：自動壁紙糊付機が好調

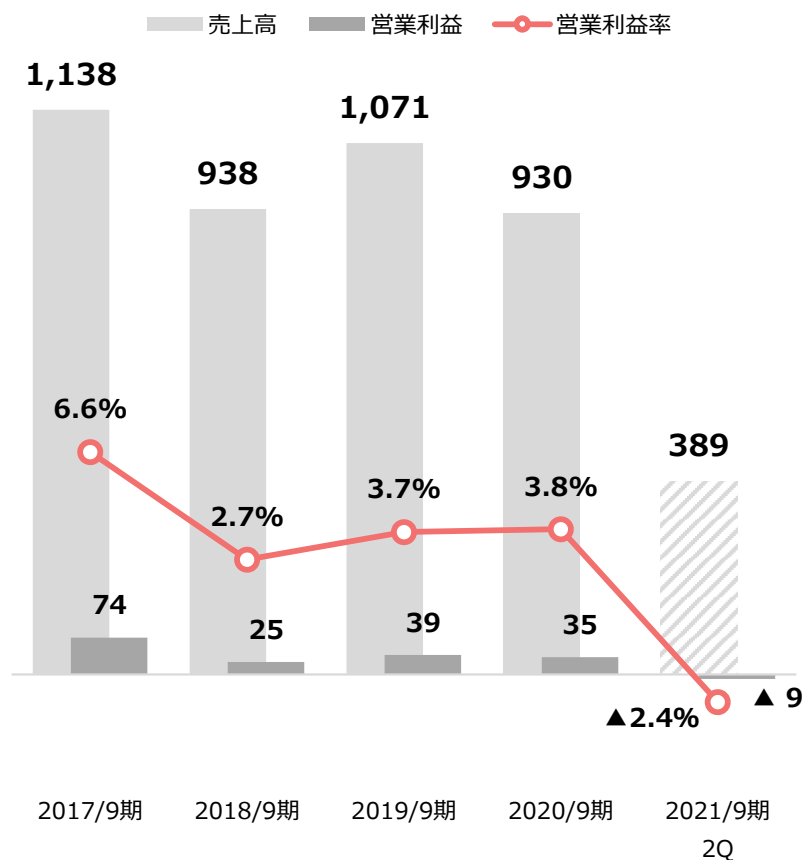
- ✓ コロナ禍受け、営業方式を大規模展示会方式から各営業所単位でのターゲティングアプローチ方式に転換
- ✓ 自由に工夫して見込客にアプローチした結果、より効率的な営業を実現。本社はリモートでバックアップ
- ✓ 「持続化給付金」も後押し

セグメント別事業の状況 ②コンシューマセグメント

- 前年同期比では大幅な減収減益。半期ベースとはいえ、営業赤字を計上
- コンシューマ事業は特殊機能置は葬祭用置などを中心に堅調に推移したものの、ネットビジネス部門の広告宣伝費コスト重く損益を圧迫。ソーラー・エネルギー事業は大型案件を開拓中だが、上半期では案件数の減少に加え、開発工事の遅延も発生

売上高・営業利益・営業利益率

(百万円)



主な変動要因

① ソーラー・エネルギー事業：案件開発の遅延

- ✓ 一部工事で遅延発生
- ✓ 大型案件数も減少

② コンシューマ事業：増収減益

- ✓ コロナ禍の影響あるも、葬祭用置などの特殊機能置の販売は堅調
- ✓ インターネットを活用した置替え仲介ビジネスも着実に拡大。ただし、広告宣伝コストの負担増は吸収できず

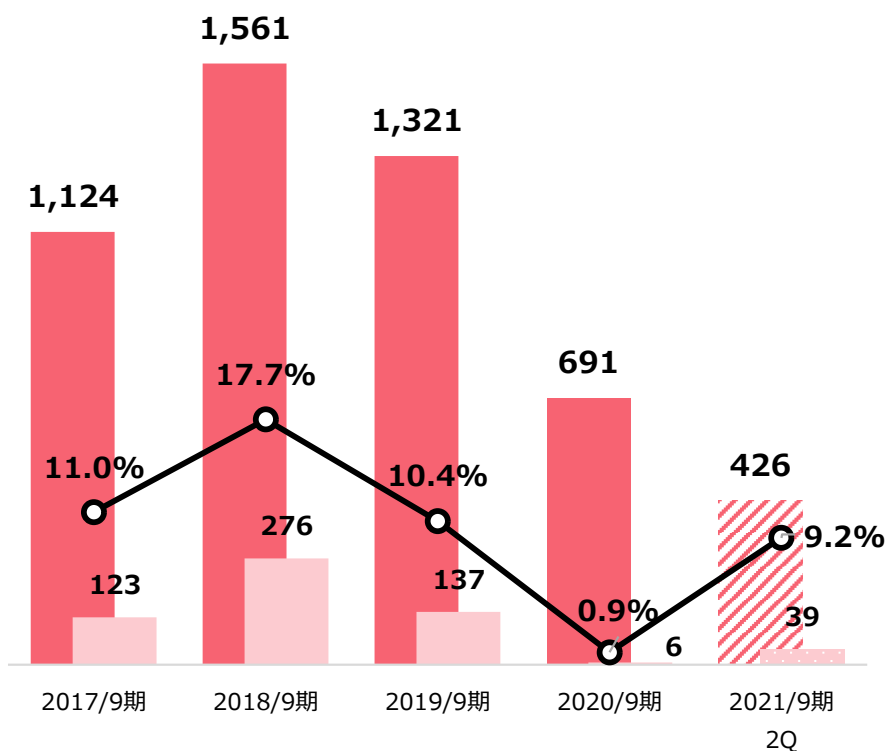
セグメント別事業の状況 ③ インダストリーセグメント ニューインダストリーセグメント

- 前年同期比増収増益。食品機器事業ではコロナ禍による外食店舗の縮小など逆風下にあるものの、産業機器では二次電池製造用スリッターの受注が回復。従来より注力していたスリッターの前後工程にもビジネスが拡大
- 当期より当社グループとなったROSECCが担うニューインダストリーセグメントは、コロナ禍に伴う自動車関連投資抑制の流れからやや厳しいスタート。下期に向けて、案件開拓中

インダストリーセグメントの業績

(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益 ○ 営業利益率



インダストリーセグメント 主たる変動要因

- ① **産業機器事業：二次電池製造用機器が好調**
 - ✓ 二次電池製造用スリッターに加え、前工程（コーター）にも守備範囲が拡大
 - ✓ エンドユーザーもかつての中国中心から他の地域への多様化及び国内回帰が進捗。特定地域依存リスクは低減
- ② **食品機器関連：新型コロナ禍の影響が継続**
 - ✓ コロナ禍で外食店舗の投資余力低下

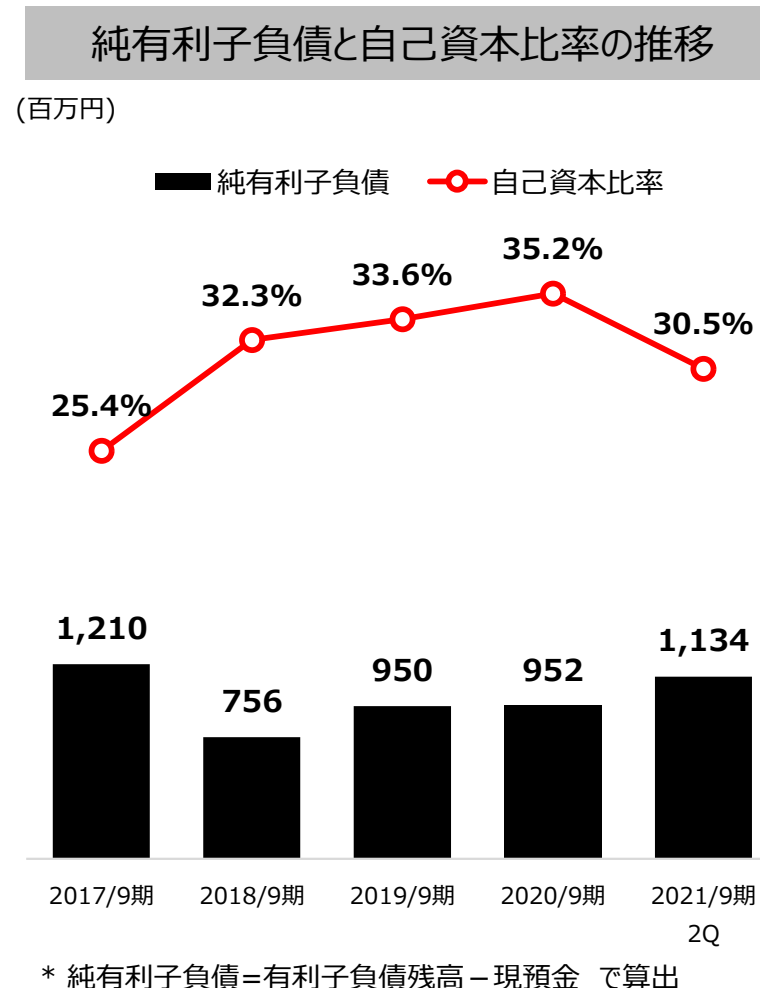
ニューインダストリーセグメント(ROSECC)の状況

- ✓ 自動車関連の投資抑制により厳しいスタートながら、当社コア技術の拡充強化に貢献
- ✓ 先行指標となる自動車生産は既に回復基調に転換済

バランスシート状況

- 買収によりROSECC社をフル連結したことでバランスシートは全体的にボリュームアップ
- 買収資金調達などで有利子負債は増加。これを受け、自己資本比率は30.5%と前期末比5pp低下

(百万円)	2019/9期	2020/9期	2021/9期 2Q累計
流動資産	5,344	5,048	6,081
現預金	1,407	1,429	1,880
売掛債権	3,034	2,627	2,967
棚卸資産	876	953	1,130
固定資産	2,678	2,543	2,824
総資産	8,023	7,591	8,905
負債	5,326	4,918	6,192
買入債務	2,003	1,635	2,147
有利子負債	2,357	2,381	3,014
純資産	2,696	2,673	2,712
負債純資産合計	8,023	7,591	8,905

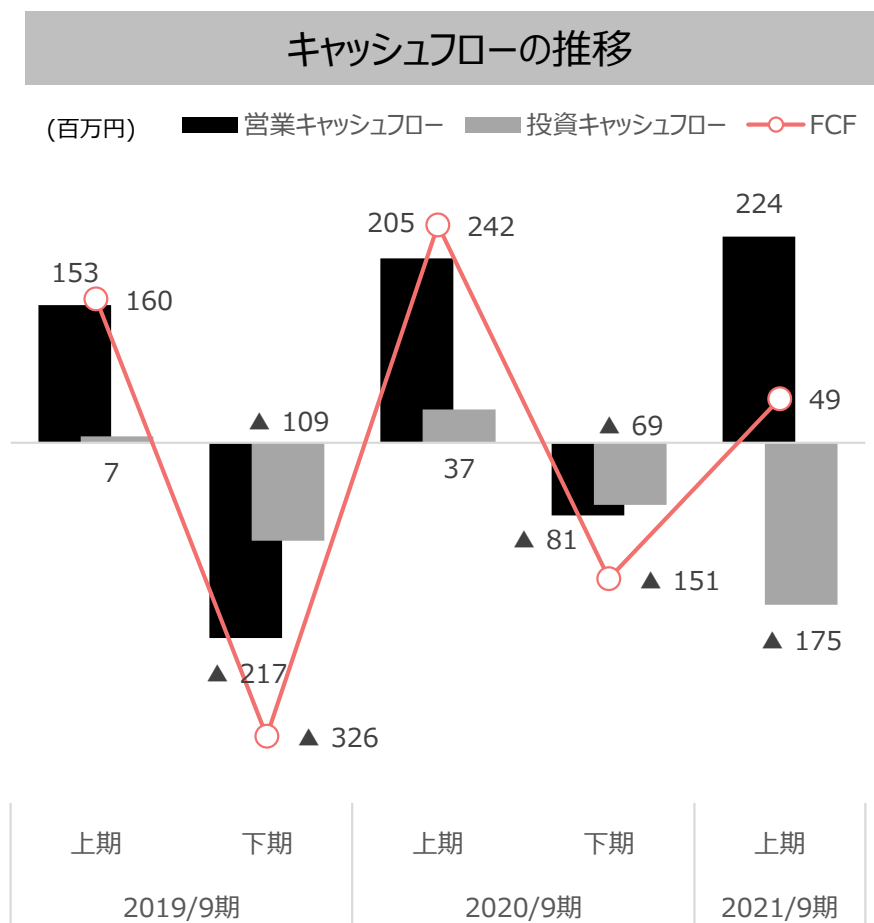


キャッシュフローの状況

- 当社の営業CFは上期先行型。当上半期も営業CFは潤沢な水準を確保。子会社株式（ROSECC）取得で投資CFは大幅支出となったものの、FCFは黒字確保
- 子会社株式取得などに活用するため長期借入中心に資金を厚めに調達。その結果、財務CFは大幅増となり、手元資金も潤沢な水準を確保

(百万円)	2019/9期		2020/9期		2021/9期
	上期	下期	上期	下期	上期
営業CF	153	▲217	205	▲81	224
投資CF	7	▲109	37	▲69	▲175
設備投資	▲42	▲34	▲34	▲26	▲36
子会社取得	—	—	—	—	▲220
FCF	160	▲326	242	▲151	49
財務CF	▲90	92	▲176	106	440
借入金変動	▲92	94	▲95	106	497
配当金支払	▲52	0	▲53	0	▲53
期末現預金	1,260	1,026	1,092	1,046	1,536

* FCF=営業CF+投資CF で算出





2021/9期決算見通し

通期業績見直しを上方修正

プロフェッショナルセグメントの売上想定を引上げ

	期初見直し (2020/11)		修正見直し (2021/4)
売上高	92.3 億円		93.7 億円
営業利益	1.7 億円		3.0 億円
営業利益率	1.8 %		3.2 %

2021年9月期決算見通し

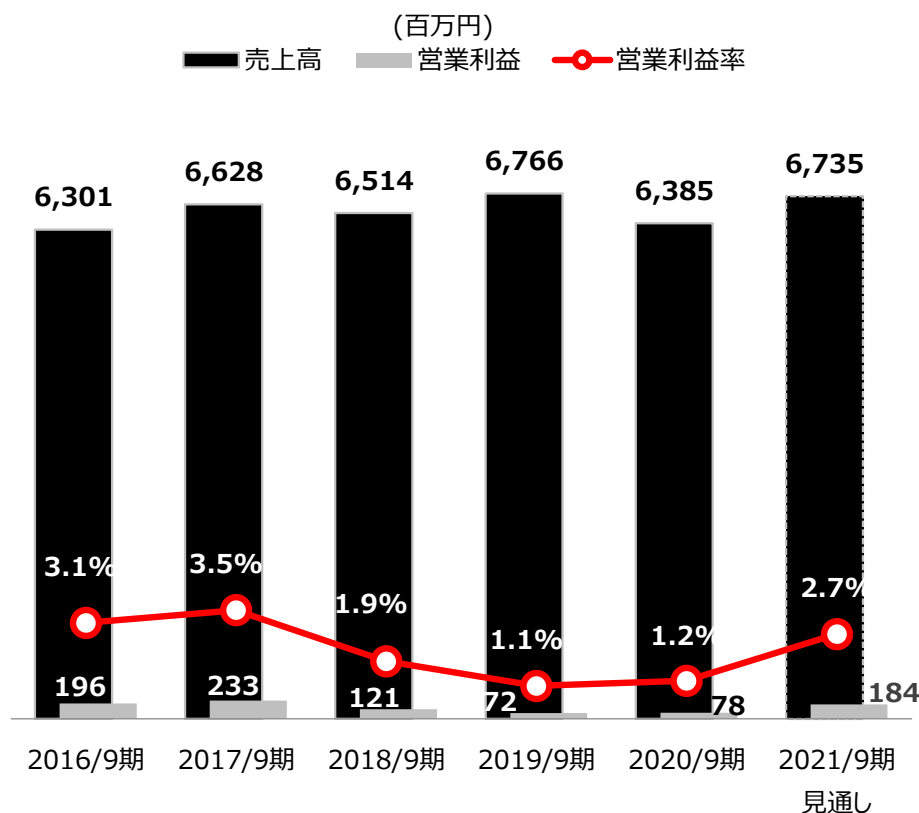
- 通期業績は17%増収、営業利益は2.5倍を予想。プロフェッショナルとインダストリーの好調を背景に、期初想定からも大幅な見通しの引上げを実施済
- ただし、半期別に見ると、下期は対上期で減速を想定。期ズレとなったソーラー工事の進捗などはプラス要因ながら、プロフェッショナルで自動糊付機買換需要の一服を見込む他、諸経費の増に加えて上期計上の株式売却益も消失の見通し

(百万円)	2019/9期	2020/9期	2021/9期				
			期初見通し (11/13)	修正見通し (4/28)	前期比 増減率	上期実績	下期見通し
売上高	9,159	8,006	9,235	9,370	+17.0%	4,674	4,696
プロフェッショナル	6,766	6,385	6,615	6,735	+5.5%	3,501	3,234
コンシューマ	1,071	930	985	1,000	+7.5%	389	611
インダストリー	1,321	691	1,635	980	+41.8%	426	554
ニュー・インダストリー	—	—	—	655	—	357	298
営業利益	248	120	170	300	2.5倍	179	121
プロフェッショナル	72	78	89	184	2.4倍	146	38
コンシューマ	39	35	19	34	▲2.9%	▲9	43
インダストリー	137	6	62	82	13.7倍	39	43
ニュー・インダストリー	—	—	—	0	—	3	▲3
経常利益	212	81	125	285	3.5倍	203	82
当期純利益	144	67	80	190	2.7倍	151	39
営業利益率	2.7%	1.5%	1.8%	3.2%	1.7pp	3.8%	2.6%
経常利益率	2.3%	1.0%	1.4%	3.0%	2.0pp	4.3%	1.7%

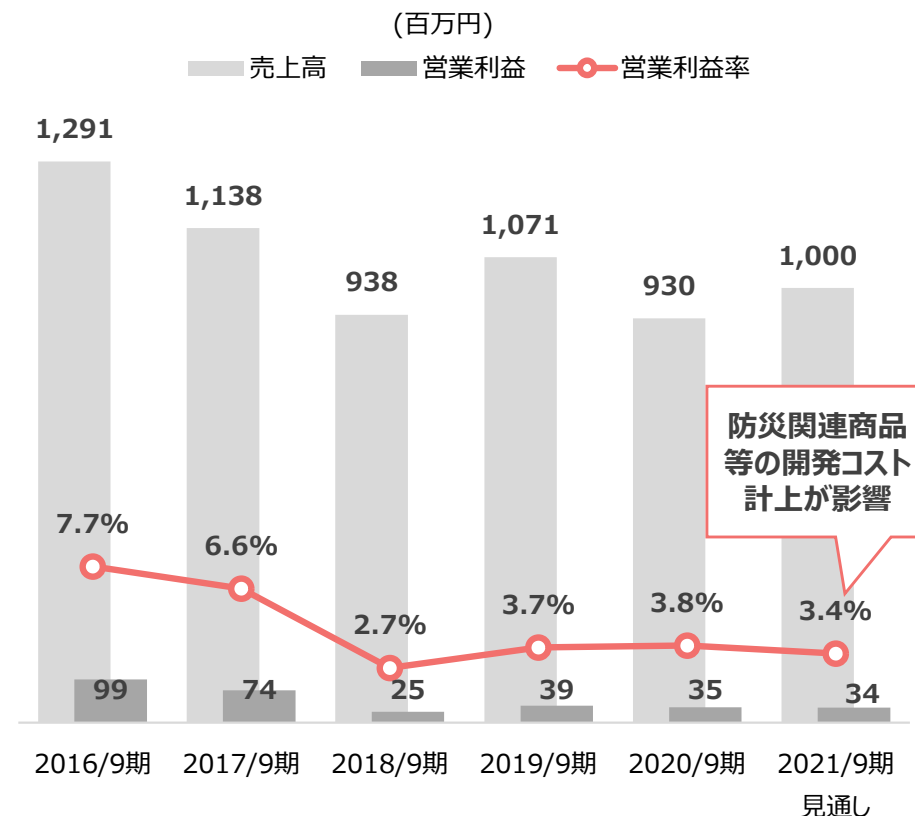
2021年9月期決算 セグメント別見通し①

- プロフェッショナルは自動壁紙糊付機、コンピュータ式畳製造システムで各々販売50年・40年のキャンペーンを積極実施し、「新しい営業方式」による効率改善定着を狙う。ただし、インテリア事業に関しては、下期は買換需要減速懸念から保守的に想定
- コンシューマではコロナ対策も兼ねた防災商品等の開発や葬祭用畳・柔道畳等特殊機能畳の販売に注力。インターネットを活用した畳替え仲介ビジネスの推進やダスキンとの協業成果発現を急ぐ。下期は期ズレとなったソーラー工事が収益を下支え

プロフェッショナルセグメント



コンシューマセグメント

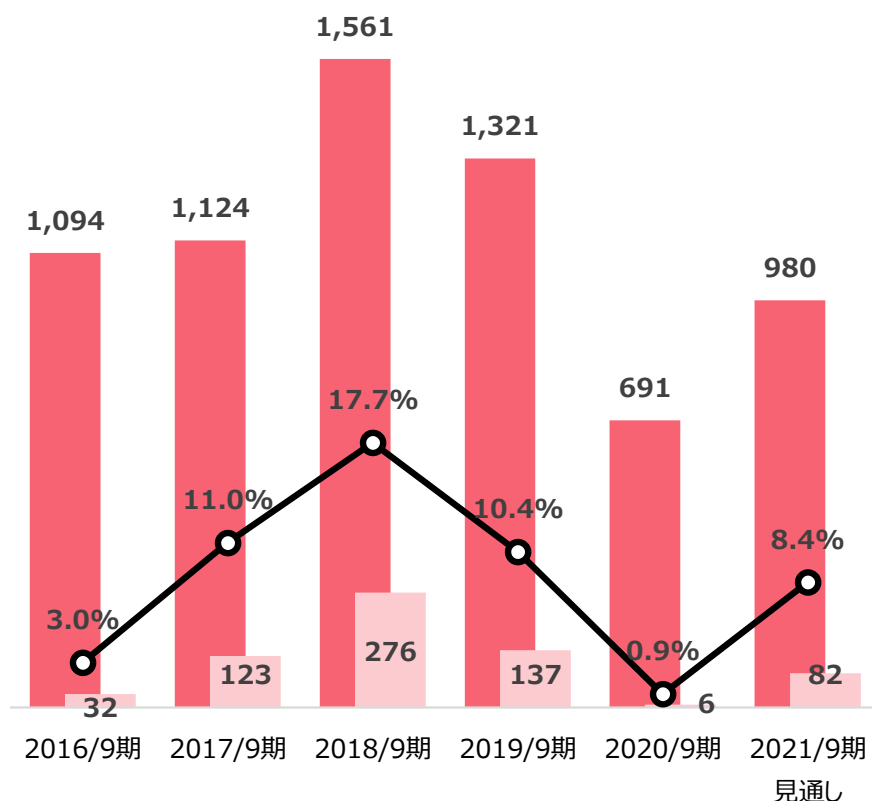


2021年9月期決算 セグメント別見通し②

- インダストリーは最も業績改善に貢献。二次電池製造工程での幅広い展開定着に注力。中国以外の取引先への多様化や国内回帰の流れが継続する中、納入製品の前後工程への拡大の効果発現を目論む
- ニュー・インダストリーは先行指標となる自動車生産は回復ながら、現時点では保守的な想定を設定

インダストリーセグメント

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率
(百万円)

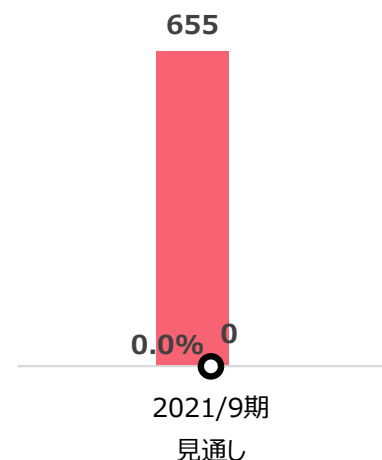


ニュー・インダストリーセグメント

- 取引先の自動車関連向け納品の停滞が続く見通し

2021/9期見通し

売上高 655百万円
営業利益 0



KYOKUTO

THE PROFESSIONAL
MACHINES AND TOOLS
SINCE 1948

トピック

オンライン葬儀サービス開始

- コロナ禍時代、更に来る超高齢化社会における新サービスとして、2021/4よりオンライン葬儀サービスシステム“ichi-e”の提供を開始
- PC・スマホを介して葬儀における種々の事務サービスをシステム化するサブスクリプションモデル。対象は全国の葬儀会社。葬儀における喪主・参列者双方の負担の大幅な軽減を実現
- 黒子的立ち位置でのサービス提供は当社の得意な手法。葬儀用畳の提供を起点に、サービス対応領域の拡大を追求





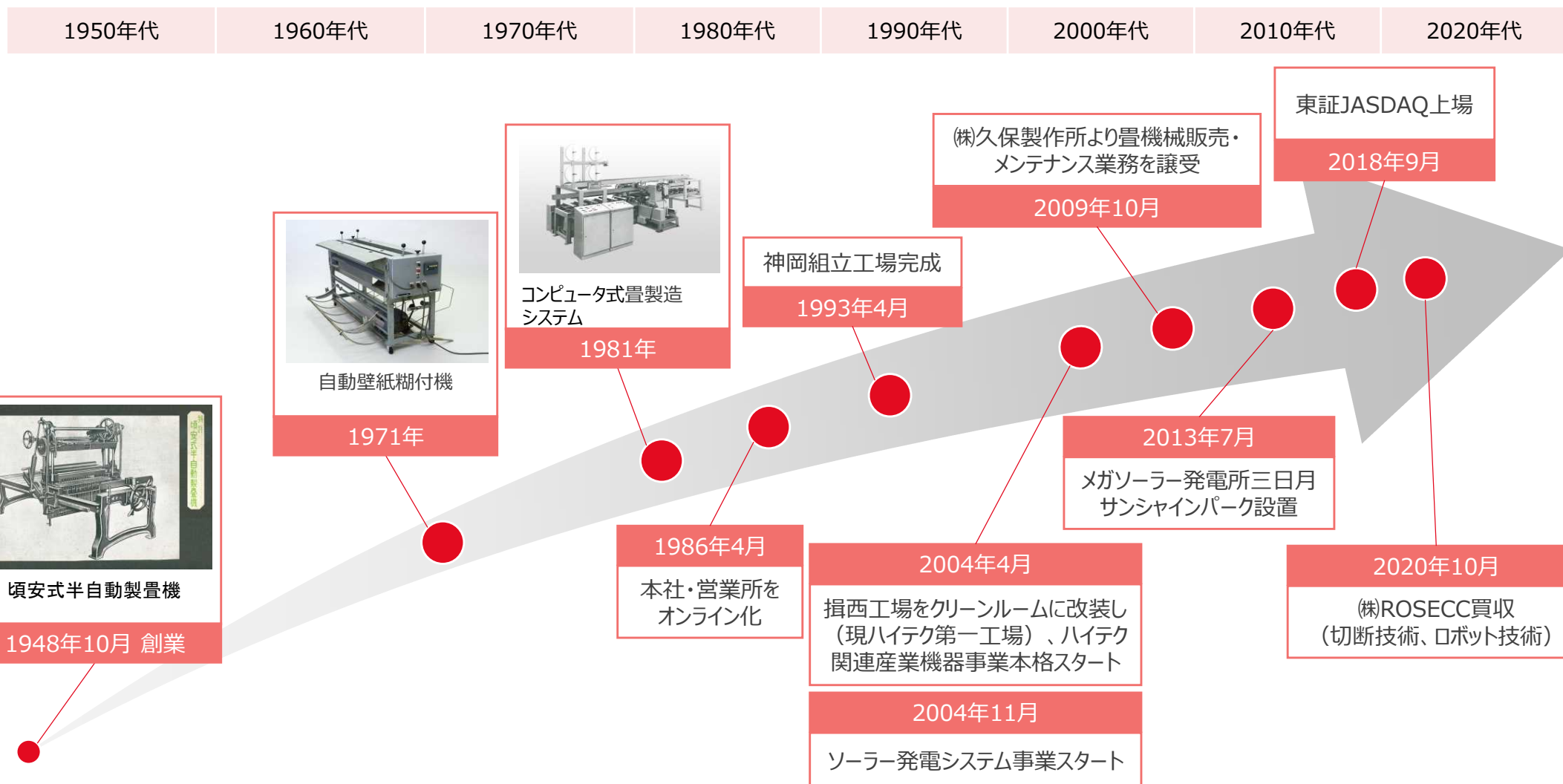
Appendix

「極東産機」とは

「職人」の世界に自動化・省力化技術を導入し（＝**つなぐ**。）、
新しい市場を創造する（＝**ツクル**。） 問題解決型マシナリー企業

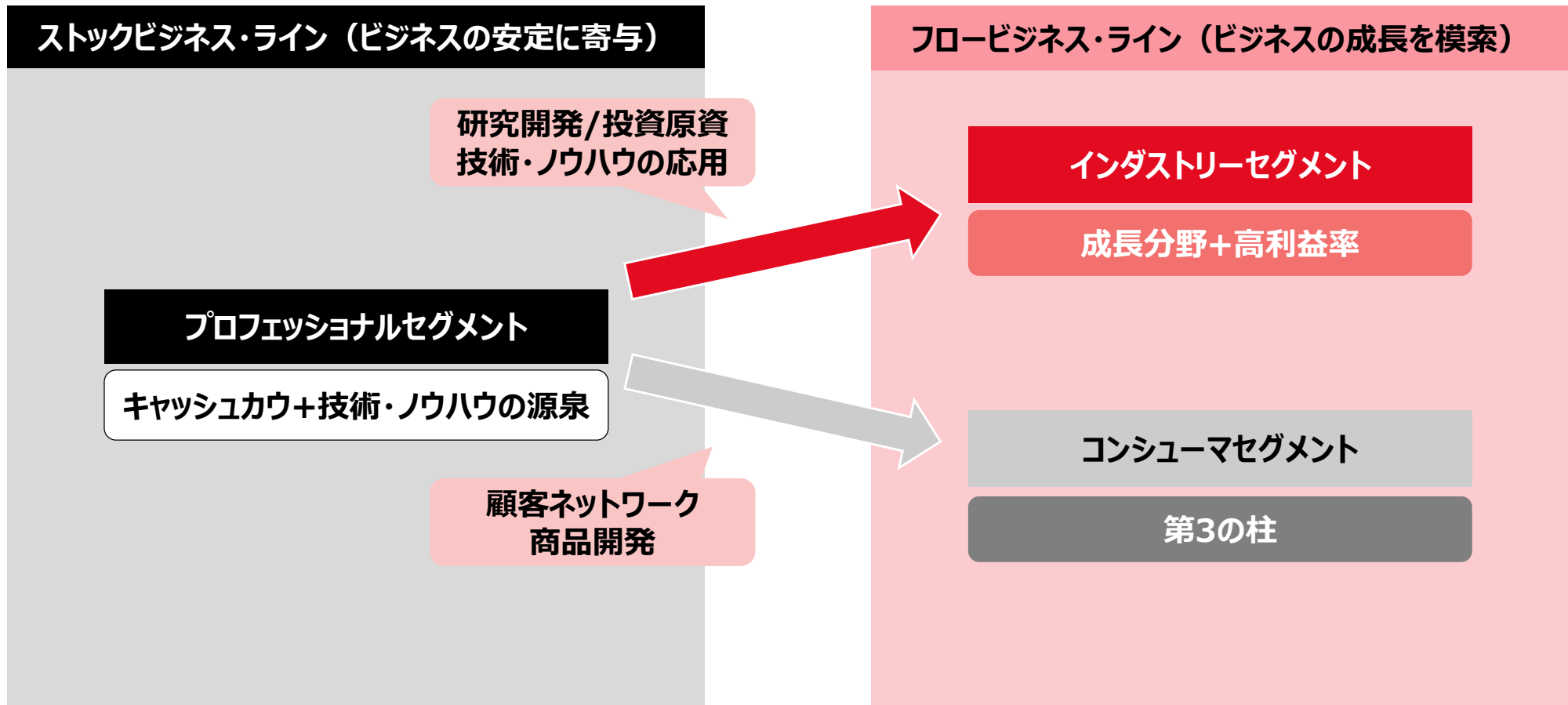
沿革

- 日本初のコンピュータ式畳製造システム、自動壁紙糊付機を開発。職人の世界にいち早くコンピュータを導入
- 現在はハイテク分野、メガソーラー発電などにも事業を展開



ビジネスモデル

- プロフェッショナルセグメントはストックビジネス色が強く、キャッシュカウ、技術の源泉として会社に貢献
- 一方、インダストリーセグメント、コンシューマセグメントは成長を模索する事業
- プロフェッショナルセグメントからインダストリーセグメント・コンシューマセグメントへ、キャッシュ、技術、ネットワークを供給し、会社全体の成長を図っていく仕組み



- より難しい技術への挑戦により、独自の自動化・省力化ノウハウを構築
- ストックビジネスとフロービジネスの2本柱を保有することで、安定性と成長性を両立

ポイント

1

職人技術の自動化・省力化ノウハウ

- 機械化の困難な分野の自動化・省力化技術をインダストリーセグメントへも展開
- 職人技に匹敵する7つのコア技術を当社1社で提供可能

ポイント

2

高い製商品開発力・提案力

- 独自製品開発に向け、設備投資に匹敵する資金を研究開発に投入
- 新製商品売上高は全社売上の約3分の1を継続的に維持

ポイント

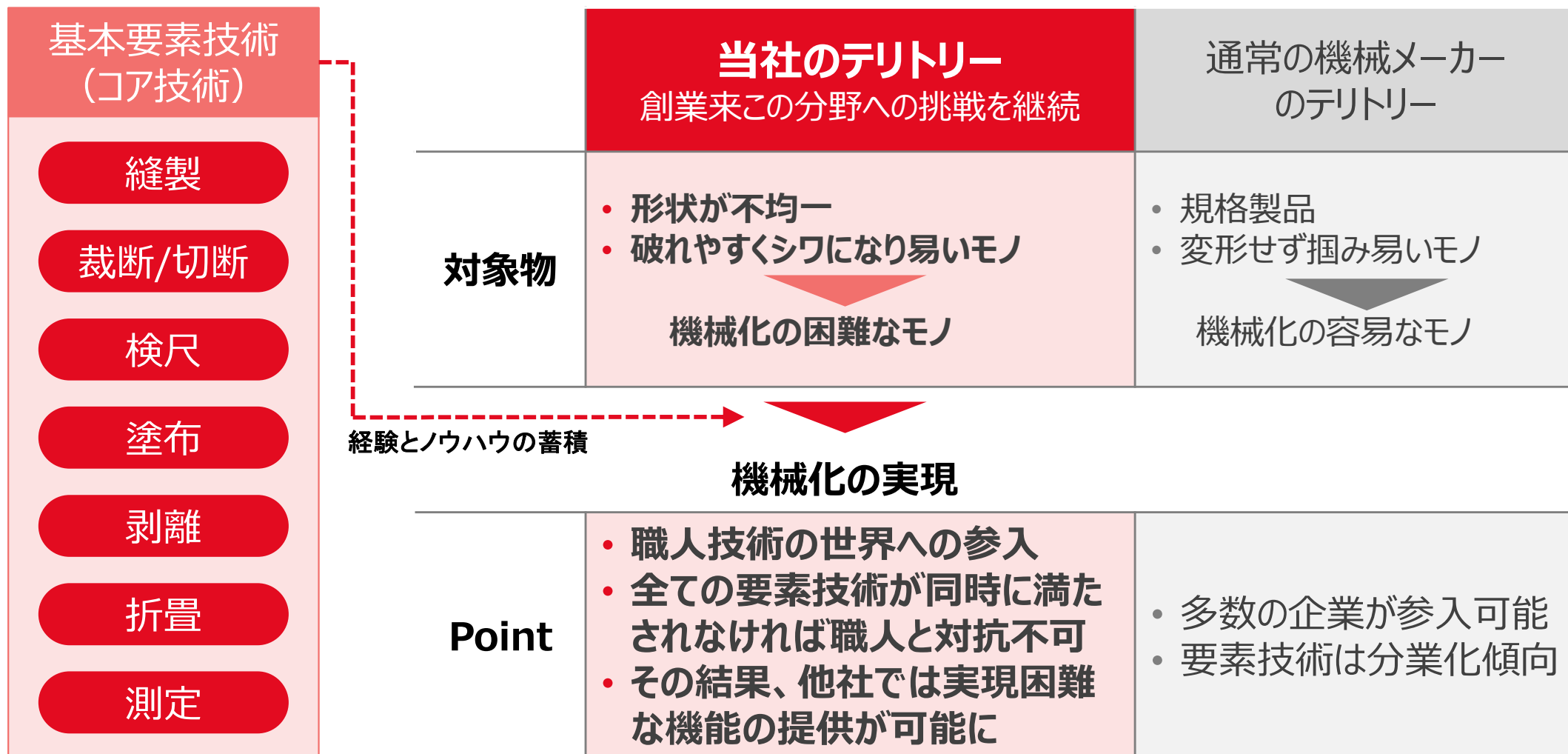
3

ストックビジネス(安定性)とフロービジネス(成長性)の2本柱

- 両ビジネスの紐帯は自社技術とそのノウハウ
- 2本柱でビジネスの安定性を確保しつつ、成長分野の探求も可能に

職人技術の自動化・省力化ノウハウ

- 7つの基本要素技術（コア技術）を全て満たす企業は少ないが、当社は1社で全て保有
- そもそも機械化が困難な職人の世界に当社は挑戦



半導体・電子機器

自動車

●液晶検査装置

液晶パネルを構成するカラーフィルタ、アレイ、セルの検査をおこなう装置



●車載二次電池用スリッター

原反の電極またはセパレータ材料を製品幅に連続して裁断し巻き取る装置



建築

● 種子マット製造設備

土壌保全等に使用するシートに芝生の種子を載せて上からシートを縫い合わせる装置



繊維・アパレル

● コンテナバッグ縫製設備

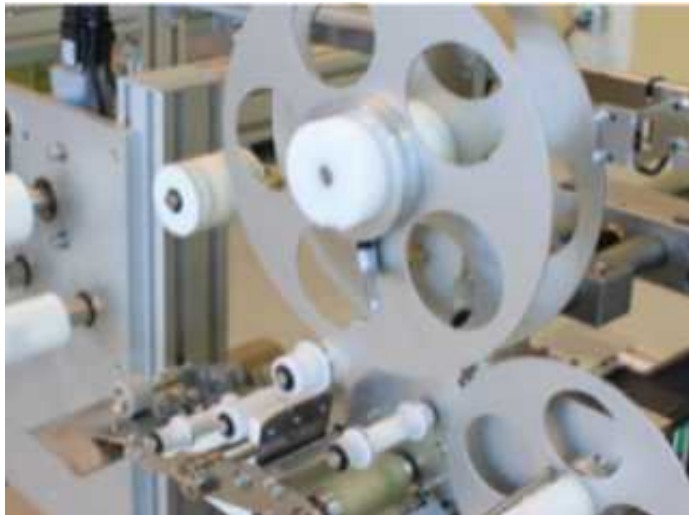
羊毛原料を搬送するときに使用する四角いコンテナ状バッグを縫製する設備



医療

● IDタグ貼付装置

医療用品に、管理用のRFIDラベル (ICタグ)を連続して貼り付ける装置



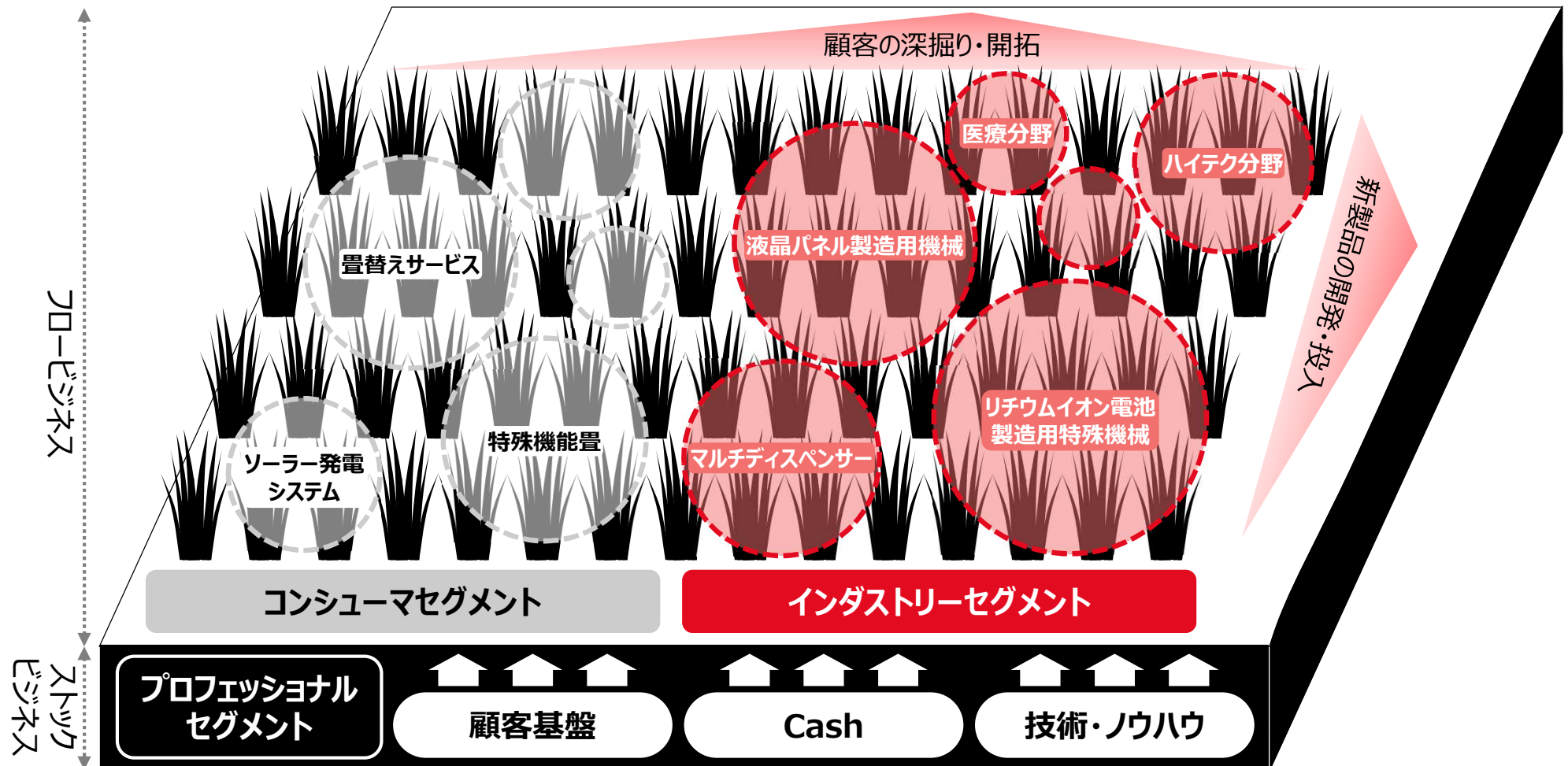
食品機器

● マルチ DISPENSER

味噌、濃縮ダシ、濃縮スープ等を希釈して定量供給する装置



プロフェッショナルセグメントは「畑」 コンシューマセグメント、インダストリーセグメントは「果実」である！！



決算ハイライト

決算年月		2016年9月	2017年9月	2018年9月	2019年9月	2020年9月	2021年9月 (第2四半期)
売上高	(千円)	8,687,503	8,891,042	9,014,643	9,159,561	8,006,367	4,674,795
経常利益	(千円)	280,086	389,101	381,170	212,791	81,586	203,842
当期純利益	(千円)	174,634	244,596	303,342	144,681	67,685	151,704
資本金	(千円)	415,750	415,750	602,050	631,112	631,112	631,112
発行済株式総数	(株)	4,235,000	4,235,000	5,235,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000
純資産額	(千円)	1,653,738	1,906,432	2,573,862	2,696,681	2,673,643	2,712,825
総資産額	(千円)	7,587,522	7,510,556	7,962,550	8,023,664	7,591,862	8,905,662
1株当たり純資産額	(円)	390.49	450.16	491.66	500.22	495.95	503.21
1株当たり配当額	(円)	5.00	5.00	10.00	10.00	10.00	—
1株当たり当期純利益金額	(円)	41.24	57.76	71.40	26.90	12.56	28.14
自己資本比率	(%)	21.8	25.4	32.3	33.6	35.2	30.5
自己資本利益率	(%)	11.1	13.7	13.5	5.5	2.5	—
配当性向	(%)	12.1	8.7	14.0	37.2	79.6	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	556,935	431,823	341,141	▲64,289	124,059	224,217
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲207,884	▲112,678	▲233,484	▲102,383	▲32,338	▲175,162
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲449,328	▲422,355	102,907	2,356	▲70,960	440,478
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,082,549	979,339	1,189,908	1,025,591	1,046,348	1,535,891
従業員数	(人)	254	256	260	275	281	—
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(19)	(19)	(25)	(24)	(23)	(—)

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@kyokuto-sanki.co.jp